

教育ニュース「響学 共動」 12

今週の児童川柳

「楽しみな 給食せんぶ

食べるんだ」(3年生)

平成 22 年 9 月 13 日

広島市立吉島小学校

「秋のよる 葉っぱがおちる きれいだなあ」「今月も 暑い日つづき まっ黒け」など対照的な川柳が川柳箱に。再開した学校生活は2週目を終え、授業も本格化。季節は、着実に「秋」に向かっています。子どもたちは、どんな秋にするのでしょうか???

「ことわざ」を大きな声で音読する1・2年生。すごいなあ～ 感激した朝学習!

朝の吉島タイム、元気のよい声が1・2年生の教室から。教室に入ると、姿勢正しく口を大きくあけ、テキストにある「ためになることば」(ことわざ)を音読する姿が。その一体感はお見事。瞳もぎらぎら輝いています。

音読は、集中力を高めるとともに、言語感を磨き語彙をも豊かにすると言われています。一斉音読後は、一人ひとりが暗唱したことわざなどをみんなのまえで披露するチャレンジタイムが。その声にじっ～と聴き入る級友と担任の先生「がんばって、もう少しじゃけえ」と励ます(心のさけび)があちこちから聞こえてくるうでした。

ことわざ例

「苦あれば楽あり」
「正直は一生の宝」
「親しきなかにも礼儀あり」
「急がば回れ」 など

本校では、今年度、音読に一層力を入れていきます。音読の目標は、正確に音読する 想像しながら音読する 味わいながら音読する、というように段階的に定めることが多く、音読を楽しめる「3D音読」をめざしています。

3D音読とは?

強弱や抑揚、間の取り方などを変化させて読み方を工夫したり、自分の読みを表現するために原文に言葉を加えたり言い換えをしたりしながら音声表現する、立体感のある豊かな音読表現です。特に文学的な文章などの読み物を楽しむには適しています。

算数の時間、難解な「論証学習」に取り組む5年生。響学している姿に大感激!

廊下の小窓から、黒板の前にいる児童の考えを聴き入っている級友たちの姿がみえました。中に入ってみると、児童が自ら導き出した五角形の内角の和の出し方を説明している場面でした。

既習したことを生かし内角の和を導き出しその解に至る過程を説明する児童、その説明を自分の考え方と比べながら聴き入る級友たち。その過程で説明が少し行き詰まり、沈黙が生まれました。自らの考えを整理する児童、その側で、ゆったりと見守る先生。時に先生から児童に、整理のし方を助言する声が伝わる。この時間を級友たち全員が共有し、見守る。学級のなかに、「もう少しよ、最後まで考えを聞かせてね」という雰囲気生まれています。

しばらくして、説明が再び始まる。あちこちから頷きが生まれている。先生は説明の内容を板書していく。その後、板書されたことを学級全員で音読する。先生も加わる。そして、先生からの「さんの説明はどうでしたか」の問いに、「よくわかりました」の声と大きな大きな頷きがありました。

「素晴らしい授業よ、ありがとう」と感謝するとともに、学級の全児童と先生から、「学び合い分かり合うことの尊さ」を実感させてくれたひと時でした。

